

乗 鞍 岳		
北	ア	位ヶ原～野麦部落

1990. 12. 29～31

L. 田中、鈴木、西川、岩崎、武部(記)

12. 29 (土) 晴

バス終点のレストハウスで昼食を取り、身支度を整える。それほど混雑もなく、一人ずつペアリフトに乗る。スムーズに3本乗り継いで、降りればもう標高2000m。楽なものである。ほぼ西ヘルートを取り、やや急な斜面を1つ登った所から、幅10m前後の明瞭な切り開きとなる。スキーのトレースもある。天気は上々。年末の荒々しさから解放されて、歩調に息を合わせながら着実に進む。1時間も登れば正面に三角錘形の剣ヶ峰が見えてくる。雪煙が舞って風はかなり強そうだ。1時間半程で、位ヶ原の下、すぐ前方に道路のガードレールが見える。2400m地点にテントを張る。

リフト下	12:50	—	リフト
終点	13:30	—	2400m
	15:00		

12. 30 (日) 晴

風はあるが天気は良い。高天ヶ原の科尔に向けて出発。膝まで潜っていたが、樹林帯を抜けハイマツ帯になるとだんだんとクラストしてきて助かった。大きな沢が2本直進を拒むが少し登ると思ったよりも容易に沢床に降りられ渡ることができた。乗鞍岳と高天ヶ原との谷間に入る前に休憩。振り向くと、雲の中から穂高連峰が顔を出す。八ヶ岳がのんびり広がっている。高天ヶ原

の科尔へと登る。極一部アイスバーンがあり、滑落しなくなかったのでトップだったTは、ダメとか言ってちょっとUターンしてもらいケツについた。科尔は風で氷ツルツル。そこを乗り越えた岳谷で休憩。ここからは山頂を目指して、空身でアイゼンを持ってシールで登る。大日岳と頂上との科尔迄50m位になってくるとアイスバーンになり、一番始めにTがスキーを脱ぐ。Sさんは科尔迄シールで登ってしまった。感心！スキーを吹き溜まり気味の所に寝かせ、けつとばして食い込ませてデポする。みんなもスキーを脱ぎアイゼンを付けて科尔に登る。科尔から頂上迄はすぐそこ。Sさんは「しょうがないからアイゼンを付けるか」と言いながらツメの丸まった一本締めアイゼンを付けた。なぜか頂上へはSさんとTの2人がアタック。思ったより雪は柔らかくすねまで潜る。最後10mは岩場が出てきた。大きな岩と岩の間にスタンスをとったときにポゴッと雪が崩れヒヤッとした。後ろでSさんが「この辺でいいだろう。」と言い、あと5mで頂上なのにとともに思ったが、不安感と目的とを考えて同意し撤退する。科尔はまともに立てない程の烈風の為、風下側のルートをとったがそれでもあまり変わらなかった。目的は滑ることにあり。スキーのデポ地点からザック迄の滑降が、途中突風に困りながらもこの山行中最も快適であった。ザックを背負ってからの岳谷の滑降は、えぐれたシュカブラで難しかった。岳谷から離れ少し行くと下部が見渡せた。そこでルートの確認をする。神立原、濁川の車道、下部の1670mの台地が確認できる。此処から急になるため遠くは見えても目の錯覚で下部の1670mの台地へ続く尾根が確認できない。15分位議論し方位磁石に従い滑降す

る。すぐに密林帯に入る。どうしようもない密林の中をなんとか行く。全滑降のうち9割がこの密林であった。4時になっても野麦は遠い。暗くなる少し前やっと本日の行動終了。みんなもうへとへと。この晩、Tがホエーブスのヘッドを給油のときに失ったが、翌朝見つけた。寝るときは、エスパース4、5人天で5人。まさに戦場。今日は樹林帯の中で風もなく暖かい。

天場(2430m) 8:00 -
 高天ヶ原のCOL 9:40、10:00 -
 0 - 頂上直下 10:50 -
 高天ヶ原のCOL 11:20、11:40 -
 2300m 13:20
 - 天場(1660m) 16:40

12.31(月) 晴

シールを付け、左上の尾根を目指して進む。尾根に出れば正面に御岳が望まれる。今日も天気はすばらしい。

程なく赤ペンキ印を見つけ、それに従って進む。ひとつ斜面を滑って小さな尾根を乗っ越して林道へ出る。振り返れば真っ青な空に白く聳える乗鞍が美しい。林道沿いに進んで鉄塔の下へ出る。最後の滑りになる。左の沢は木が混んでおり、尾根通しに行つて下の林道に出た方がよい。

野麦の村は数日前に降った雪に覆われて静かな年末を迎えていた。風呂に入ろうかと思つていた七峰館は休館であった。依頼したタクシーはなかなか捕まらず、結局電話を借りた民宿坂屋のご主人がバス停のある明野まで運んでくれた。

天場(1660m) 8:00 -
 林道 8:50、9:10 - 鉄塔
 9:20、40 - 下の林道 -
 10:00、25 - 野麦 10:30

